仔犬

小型犬や超小型犬の仔犬の食餌

小型犬や超小型犬の体重の単位あたりのエネルギー必要量は、中型犬や大型犬に比べて高くなっています。

これは、小型犬や超小型犬では体重に対する体表面積の比率が高いためです。 カロリー必要量やエネルギー必要量は、ペットによって大きなばらつきがあります。小型犬や超小型犬は比較的少量の食餌しか必要としないうえに、飼い主が抱き上げる傾向があるため、遺伝的に体重が増加しやすい傾向があります。正常な成長とやせ型の健康体型を維持できるように、仔犬は個別に給餌すべきです。Purina ボディコンディションスコアと体重は、自宅と獣医師による定期診察時にも継続的にチェックする必要があります。

キーメッセージ

何を与えるべきか？

- 仔犬には、骨格が完全に成熟するまで、完全でバランスのとれた 成長期用の食餌を与える必要があります。一般的に小型犬や超小型犬がこの状態に達するのは、生後 6〜10 ヵ月です。
- 小型犬や超小型犬の仔犬向けに調製された食餌は、エネルギー密度と栄養密度が高く、消化がよく、手に入りやすい材料を含んでいる必要があります。このようなフードの粒の大きさと形状は、小さな口に合うように作られています。
- 維持期用の食餌は仔犬には推奨されませんが、「全ライフステージ対応」とラベル記載された食餌であれば、仔犬にも与えることができます。
- ウェットフードか、ドライフードかは、飼い主の好みによります。
  - ドライフードは、水分を含むウェットフードよりも、カロリー密度が高くなっています。
  - ドライフードには歯科的な利点があり、研磨作用があるため、歯垢の除去に役立ちます。小型犬の中には、遺伝的に歯や口腔内の問題を起こしやすい犬がいます。
- 新鮮な水を用意して、仔犬が自由に飲めるようにしましょう。

（次のページに続く）

キーメッセージ（続き）

いつ与えるか？

- 小型犬には、食べたいときに食べられる給餌方法（不断給餌）が有効な場合があります。ただし、体型を継続的にチェックして、体重の増えすぎを防ぐ必要があります。
- 給餌は、食物摂取量のコントロールだけでなく、ハウストレーニングにも役立ちます。これは、仔犬は食べるとすぐに排便したくなる傾向があるためです。
- 生後 4 ヵ月未満の小型犬や超小型犬は、自由に食べられる給餌方法（1 日の給餌量を量る）を取るか、4 回以上に分けて給餌することができます。
- 生後 4 ヵ月以降は、1 日の給餌回数を減らします。生後 6 ヵ月までに 1 日 2 回にすれば十分です。

どのように給餌するか？

- ペットフードのパッケージに記載されている 1 日の給餌量の目安を参照します。
- 少量しか食べない小型犬や超小型犬の仔犬の場合、標準的な 250 ml（8 オンス）のカップではなく、½ または ¼ カップを使用してもいいですが、キッチン計量器（クッキングスケール）でフードの重さをはかるのが最も正確です。
- 覚えておくべきこと：1 日あたりのカロリー摂取量 = 1 日に与えるフード、おやつ、人のおこぼれ、薬を服用するために使用するフード、トレーニング用のおやつなど、すべてが含まれます。
- 成長期の仔犬には、気が散るものや争いのない静かな環境で、個別に（それぞれの犬用の給餌器に入れて）給餌する必要があります。
- 仔犬が食べ終わるまでおよそ 30 分間待ち、その後食べ残したフードがあれば取り出します。

その他のリソース

Case, L. P., Daristotle, L., Hayek, M. G., & Raasch, M. F. (2011). *Canine and feline nutrition* (3rd ed.). Mosby. doi: 10.1016/B978-0-323-06619-8.10025-8.

Lawler, D. F. (2008). Neonatal and pediatric care of the puppy and kitten. *Theriogenology*, 70, 384-392.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。

PURINA Institute

Advancing Science for Pet Health